

## 平成 23 年度第 1 回新潟県公立大学法人評価委員会

### ～議事概要～

- 1 日 時 平成 23 年 7 月 20 日(水) 18 時～20 時 20 分
- 2 場 所 都道府県会館 403 会議室
- 3 主席者  
(委 員) 田中委員長、青木委員、浦田委員、尾畑委員、坂井委員  
(新潟県立大学) 猪口理事長、佐々木副学長 ほか 5 名  
(事 務 局) 杉山知事政策局長、丸山総務管理部副部長、  
嘉藤行政改革推進室長、唐沢文書私学課長 ほか 4 名
- 4 次第  
(1) 開会  
(2) 議事  
ア 平成 22 年度業務実績報告について  
イ 平成 22 年度業務実績に関する評価について  
(3) 閉会

### 5 議事概要

「○」：委員、「◇」：県立大学、「□」評価委員会事務局
-----------------------------

(1) 平成 22 年度業績実績について ～県立大学事務局長から説明後質疑～

○ 事業評価の項目番号 1「学部等の特性や学生の実態を踏まえ、現行の選抜方法を改善する必要があるか検討する」という項目について自己評価は a 評価となっています。大学入試センター試験の科目変更への対応は、どこの大学でも当然行うことだと思います。

また、独自日程で入試を行っているということが、中期計画や年度計画とどう関係しているのでしょうか。

◇ 年度計画との直接の対応ということから言えば、年度計画どおりの実施ということになると思います。

本項目については、志願倍率が 11.2 倍ということで効果が顕著であることを踏まえ、a としたものであります。

○ 他の委員の方ご意見やご質問ございますか。

○ 留学生の受入と派遣についてですが、説明を聞いていると 1 日だけ滞在してもそれは受入であるということです。一方、派遣は何十日という形で行っている。裏腹な話なのに受入の時だけは 1 日でもいいという点が、よくわかりません。派遣の時は何日も滞在しているわけですね。そこをどう評価するかです。

◇ 留学生の受入については、短大時代から短期の受入はありました。ですから今後も短期の受入はあり得ると思います。それがたまたま1日なのか1週間なのか2週間なのかということだと思います。そこのところを、2週間であれば何%を係数としてかければいいのか、1日であれば0.1なのかという議論になってくると思います。

ここで書かせていただいたのは、逆に問題提起でございまして、短期のものを、できればゼロではなかったと評価をしていただきたいのですが、どのような評価がいいのかということでございます。

必ずしもs評価がふさわしいと思っているわけではなく、b評価かもしれないのですが、数字が10とクリアに書かざるを得なかったものですから、機械的にsと自己評価しています。数字は10だけれども、1日だったのでb評価でしょう、ということであればそれは問題ありません。

ただ、現状からすると短期の受入もこれから増やしていきたいということは、ご理解いただければと思います。

○ 中期目標・中期計画を作った時に、ここを詰めて議論していなかったのが難しいところだと思いますが、目標数でいうと派遣は100人に対して、受入は2人です。100と2を並べているのは、結構大変だということでは2という数値にしていると思います。大変という意味は、1日だけ来る人が2人とは思ってなくて、いわゆる長期の人を受け入れようとする、新しい大学では1人や2人でも結構大変だろうということで、2としたと思います。

ただ、現実的には短期の方が多くなると、目標の書き方も変わってくるのかなという感じもします。これは後で評価委員だけで議論させていただきます。

## (2) 平成22年度業務実績に関する評価について

<事業評価 年度計画の項目番号(以下同様) 1「学部等の特性や学生の実態を踏まえ、選抜方法の改善について検討する」について>

○ 自己評価はaですが、委員からはbではないかとの意見です。

○ 先程の説明を聞いていますと、この項目に係る評価ではないのではないのでしょうか。

○ ですから、これでaというわけにはいかないという気がしたのですが、いかがでしょう。

○ bでよいのではないのでしょうか。

○ これでaとすると、評価委員会として、どうしてその評価になったのかという説明責任がでてきます。

- bでいかがでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号2「県内外から推薦者を受け入れる」について>

- 自己評価はbですが、委員からは志願者が顕著に増加しているの、aでもよいのではないかと意見です。
- 推薦入学者志願数が205名と前年の175名から30名も増加しており、そこに注目しました。
- 大学の説明は、やるべきことをやったということです。私としては、入試に関して高く評価するとするならば、こちらではないかと思えます。
- ここは後で検討としていいでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号5「大学理念、入学者受入方針の周知徹底を図る」について>

- 自己評価ではsですが、委員からはaではないかと意見です。
- これも志願倍率が高いというところで評価されているわけですね。
- 志願倍率の11.2倍で評価していると。オープンキャンパスに来た人がどれくらい受験者に貢献しているのかというような指標がもしあれば、よりはっきりして、わかりやすいです。
- ここの後で検討としていいでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号28「客員教員制度を活用して教育研究内容を充実させる」について>

- 自己評価はbですが、委員からはaではないかと意見です。
- シンポジウムの回数からすれば、かなり開催してします。
- 新潟県立大学くらいの規模の大学で、これだけシンポジウムを開催するのはかなりの努力ではないかという気はします。

- ここは少し高く評価してもいいのではないのでしょうか。

～委員全員了解～

- それでは、ここはaといたします。

<項目番号 47「掲示板や電子メールによりきめ細かな情報提供を行う」について>

- 一番簡単なのは、メールと掲示板の両方で周知することだと思いますが、評価としては自己評価どおりbでよいと思います。

～委員全員了解～

- それでは、ここはbといたします。

<項目番号 54「インターンシップの実施及び受入企業の開拓」について>

- 自己評価はaですが、委員からbではないかとの意見です。

- 計画以上の企業確保とありますが、去年も10社だったと思います。

- 先程の説明では、企業は今年も昨年も10社であるが、参加した学生数が昨年は8名、今年は31名とのことでした。人数が増えたことが改善点ではないかということですね。参加した学生数が昨年の8名から今年は31名に増加したと、そう記載していただけると、もっと評価しやすいのですが。

- 新規受入先企業は10社ではあるけれども、実際に参加したのは31名と昨年度よりも増えたのでaという説明ですが、よろしいでしょうか。

～委員全員了解～

- それでは、ここはaといたします。

<項目番号 59「地域課題解決に必要な諸施策の調査研究、政策研究センターの設置」について>

- 自己評価はbですが、委員からaではないかとの意見です。大学の説明は、やるべきことをやったということでした。

- 計画にある政策研究センターは設置したので、シンポジウムを開催し、約200名の参加を得たことをどう評価するかです。

- 200名の参加を得るということは、なかなか難しいのではないかと思います。

- 新潟県内において、200名の参加というのはどのようなものなのでしょうか。
- かなりの数です。ロシア・中国・韓国の領事、学者の方、本県の知事が参加してシンポジウムを開催しました。ほぼ満員の出席者でした。
- そうすると、単に政策研究センターを設置する以上の努力をしたという評価は、あり得るかもしれません。
- 大変評価の高いシンポジウムでしたので、aでもいいと思います。
- それでは、ここはaとします。

～委員全員了解～

<項目番号 63「地域の諸課題に地元と連携して取り組む」について>

- 自己評価はbですが、委員からはaではないかとの意見です。
- 計画では、「連携して取り組む」としてありますから、計画どおり実施したのではないのでしょうか。やるべきことを実施したと、大学も説明していました。  
この例示された4つのフォーラムなどが、さらに上回る努力なのかということだと思います。
- この例示されたものは、県立大学が主催団体として関与しているということですか。
- 主催ではございません。
- 主催団体が別にあり、適宜、県立大学が参加しているということでしょうか。
- 例えば、スイーツ作りであれば、県立大学ができることをアピールをして、そこに企業の方に乗っていただく。あるいは、自治体から、大学の参加ありませんかというところに参加するなど、各企業や自治体のやる気を後押ししていくということです。
- そうすると、いろいろあるものを着実にこなしたという評価でいいのではないのでしょうか。
- それでは、ここは自己評価どおりbとします。

～委員全員了解～

<項目番号 64「学生に対して地域貢献活動への参加を促す」について>

- 結構、学生が参加しているという印象でした。ただ、判断は難しいですね。どの程度の参加者数が標準的なのか。印象的なのはデザート開発ですとか、結構、専門的というか。
- 専門分野に近いので、これくらいかという感じでしょうか。
- そうすると自己評価どおり b でいいでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号 67「地域と学生をつなぎ、地域活動への参加を促す」について>

- 自己評価の a に対して、委員から b ではないかとの意見です。
- a とするにはインパクトがない気がします。
- 学生に対して非常に丁寧な情報提供を行っているというお話でした。地域連携については、ここを高く評価して欲しいと大学としては思っているようです。もう少し数字を出していただけると、わかりやすいです。
- 前年度は a でした。前年度と変わっていないので、b でよいのではないかという判断かと思いますが、前年度がよくて変わっていないのであれば、今年度も a という判断もあり得ます。
- 前年度にやったことがルーチンになっているということであれば、あまり高い評価はできないということでしょうか。
- 結局、中期計画の進捗を考慮するということが前提となっているわけですから、留まっているということはどう考えるかだと思います。計画の進捗を考慮すると、同じことをやっているからいいというのではなく、もし 1 年目で中期計画を達成し、次年度以降はそれを継続してやっているというのであれば、次年度以降の年度計画から外すというのも 1 つの方法だと思います。
- 大学の自己評価でも、制度として確立したものは b と説明しているところが割と多いです。それと比べて、a というための説明がどれくらいかということですが、先程の説明だと、教員全員の共有メールを設けたことが新しいことでしょうか。
- 本項目については、後ほど検討としてはいかがでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号 91「学生や教職員の法令遵守等に関する意識高揚を図る」について>

- 自己評価の b に対して、委員から c ではないかとの意見です。
- 教授会において規範の趣旨を説明し、教員に対して学生への周知を求めたとのことですが、他の項目では学生に対してメール等で周知を図っています。それであれば、本項目についても、もう少し取り組んで欲しい気がしました。ただ、昨年度なかったものを、今年作成したのであれば、b でもかまいません。
- 昨年度は、学生行動規範ができていなかったもので、ここは c と評価しました。今年、1 年遅れで作成したのをどう評価するかということですが、評価委員会が指摘したことを受け止めて、やっていただいたということが現れているわけです。昨年度作成してなくて c で、今年作成してもまた c というのではなく、b でのいいのではと思うのですが、いかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 本項目については、b とさせていただきます。

<項目番号 95「各種ハラスメント防止のための研修会を継続的に開催する」について>

- 自己評価の a に対して、委員から b ではないかとの意見です。
- もっとやることはあるので、a ではないという気がします。デートDVについての研修会を開催したとのことですが、毎年、新しい学生が入学してくるわけですから、他のハラスメントについても、毎年開催するべきではないでしょうか。
- 県立大学は、あまりこのような問題は起きないという認識でしょうか。
- 県に上がってくる報告は、交通事故関係が主体で、ハラスメントに係るものは少ないです。教員の方が上手く相談にのっているところはあると思います。
- ただ、実態として問題が少ないということで、最低限のことを実施し、それで a というのではない気がします。a というためには、やはり、かなりそれなりにやっていただかないと。1 回やっただけでは、計画どおりの感じがします。
- 先程の説明では、エンカレッジのために a としたとのことですが、a をつけてエンカレッジメントになるのかという気がします。

- 反対ではないでしょうか。
- aとすると、これくらいでいいという話になる感じがします。
- bとしてはいかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 本項目については、bとさせていただきます。

<項目番号 97「男女平等意識啓発のための研修会の開催及び学内アンケートの実施」について>

- 自己評価のbに対して、委員からcではないかとの意見です。大学の説明は、任意参加にも関わらず、全学生の1割が参加しているということでした。
- 研修会というのは、強制ではないもののある程度の周知をし、単位は付加しないけれど、それに近い評価をしてあげるとか、そういうものではないでしょうか。
- 自己評価のところでは、講演会と書いてあります。
- 研修会ではなく講演会であるから、十分でないだろうという評価の仕方はできません。
- どうして研修会を開催しなかったのかという話です。
- 講演会と記載したが、一方通行型の講演会実施ではなく、実質的には研修会であるというのが、大学の説明でした。
- それにしては、なぜ1割程度の参加者なのでしょう。
- 昨年度も同じでしたが、教育のように必ず実施しなければならないことは一生懸命行っていますが、環境作りの取組はやや遅れているという感じがします。
- そこをどのように評価するかということです。例えば、学生行動規範については、昨年は策定していなかったのがcとしましたが、今年は策定したのでbとしました。また、情報セキュリティポリシーについても、昨年は策定していなかったのがcでしたが、今年は策定したのでbとしています。本項目は昨年bでしたから、cとしますと後退した感じですけど、いかがでしょう。
- 後退というよりも、研修会を実施したかどうか問題なのではないでしょうか。

- 実施していないということですね。
- 実質的には研修会との大学の説明ですが、評価委員会としては納得できなかったということになりましょうか。
- そういう意味でcとして、しっかりやって欲しいというメッセージを伝えてはいかがでしょうか。
- メッセージを込めるというやり方はあるかと思います。
- それでは、そのようなメッセージを込めてcとさせていただきます。

～委員全員了解～

<指標評価 項目番号 12「留学生受入・派遣数」について>

- 1日滞在された方が10人とのことです。自己評価では、目標値の2人と比較して大変多いのでsとのことです。
- これは訪問であって、常識的に考えても、1日来たことで留学にはならないだろうと思います。
- そうすると、留学生とはみなさないの、実績はゼロだとみなすべきだということでしょうか。ゼロだとすると、今年もまたcだという評価になりそうな感じですね。
- 去年は1日もなかったということですね。
- 去年は1日もありませんでした。
- 1日であっても来たということは、進歩したということでしょうか。
- ゼロからですから、大変な努力であったと思います。ただ、今後を考えると、評価委員会として、どれくらいであると留学生とみなすのかということ、大学の方に伝える必要があるかもしれません。
- 大学の説明を伺っていて思ったのは、ある程度、派遣と釣り合いの取れるくらいの滞在日数がないと、留学とみなすには難しいと感じました。  
イギリスへの派遣は概ね1月間、ロシアや韓国では概ね1週間くらいを派遣とみなしているようです。一概には言えませんが、2桁の日数くらいはしないと留学生の受入とか派遣とはいいいにくい気がします。

仮に1週間くらいとすると、10人が1日滞在したということは、延べ数では1.3人分くらいかという感じがします。今回の10人日をどう考えるかです。

○ 先程のお話にあったように、1週間や10日間という話になれば、1人相当ということ。ある程度の学習レベルというのはあるのでしょうか。

○ 評価委員会の判断とすると、効果的な留学というには、少なくとも1人当たり10日間くらいは滞在する必要があるのではないかという判断で当面よさそうな感じがします。

留学に関するかなり厳しい基準でいうと、国立大学などでは、留学というには特別な許可がない限りは、だいたい1学期単位です。ただ最近、文科省は判断を変えつつあって、短期のサマースクールのようなものも留学としてよいという言い方にはなってきています。だから、必ずしも6ヶ月間いなければならないとはいっていないですけども、それでも、サマースクールであっても1ヶ月間とかそれくらい集中的にやっているのは留学だという傾向が強くなっています。

それと比べると10日間というのは、まだ甘い基準ではありますが、当面、10日間くらいは滞在してもらわないといけない。ただ、そうすると1人相当ですので、評価はどうなるかです。

○ 目標は2ですから、よくてb、悪くてcでしょうか。

○ ゼロから努力したということで、bでいかがでしょうか。これについて、事務局から何かありますか。

□ 留学生の受け入れ基準については、資料3のP. 6にあるように評価基準非適用項目でございます。単に実績値だけで評価するのではなく、目標値を標準値として、目標値との乖離状況や取組状況についても評価委員会が勘案し、評価を行うこととなっております。

○ 評価基準非適用項目ということは、本項目については、評価委員会が勘案して評価するということです。そうすると、先程お話ししたとおり、留学生に係る明確な基準がないこと、ゼロであった昨年度から努力したことを勘案して、bでいかがでしょうか。

また、受入に当たってはできる限り10日間以上滞在するような留学生受入を目指して欲しいということ、評価委員会の意見として記載するということがいかがでしょうか。

～委員全員了解～

<事業評価 項目番号2「県内外から推薦者を受け入れる」について>

- 次に、先程ペンディングとしていた No. 2に戻ります。推薦入学志願者数が前年度よりも30人増加しているということです。
- 他の項目と比較しても、数字で客観的な事実が示されているわけですから、aでいいのではないのでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号5「大学理念、入学者受入方針の周知徹底を図る」について>

- 次に、No. 5です。ホームページやオープンキャンパス等の機会を利用して大学の理念や入学者受入方針の周知徹底を図るというもので、自己評価ではsとなっています。
- sという評価をつけるのはなかなか難しいですから、いい実績が出ているということであれば、sとしてもよいのではないのでしょうか。
- 7月、9月のオープンキャンパスの参加者数は、いずれも昨年よりも増えています。昨年よりも増えているということであれば、昨年と同じくsでいかがでしょうか。

～委員全員了解～

<項目番号67「地域と学生をつなぎ、地域活動への参加を促す」について>

- 次に、No. 67です。地域と学生を双方向につなぎ、地域活動への参加を促すというもので、自己評価ではaとなっています。
- どのようなことを行っているのか、具体的な説明があまりありませんでした。
- 学生に対して丁寧な情報提供をしているとの説明でした。
- それが具体的にどのようなことなのか、今ひとつはっきりしない。
- そうしますと、委員の意見どおりaであった前年と同じ取組であり、その水準をよく維持したということで、bとしてはいかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 以上が法人の自己評価と異なる項目についての審議結果ですが、これでよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

- これら以外の項目については法人の自己評価どおりということで、よろしいでしょうか。

～委員全員了解～

- 各項目の評価理由については、本日の審議を踏まえ、委員長と事務局で作成の上、委員長に一任いただくことでよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

- 次に、今年はスケジュールの都合上、前倒しして行うことなのですが、評価書に記載する「特筆すべき取組や顕著な成果が認められた事項」について審議させていただきます。

昨年度の評価書である参考資料3のP. 4をご覧ください。昨年度は、重要な大項目である教育、研究、地域貢献の中から、高く評価すべきものとして、s評価であった項目をここに記載しておりました。

今年も、同様に行いたいと思います。教育については、事業評価のNo. 5、指標評価の志願倍率、離額した学生の割合の3つです。

- 離額した学生の割合が少ないことは、もちろんすばらしいことですが、ただ、これを特筆すべき成果とするのは苦しいかもしれません。ここで一番重要なのは、志願倍率が高かったということではないでしょうか。

～委員全員了解～

- 研究については、指標評価の受託・共同研究数、査読付き論文数、論文引用件数の3つです。昨年は受託・共同研究数で目標2件に対して実績が11件、今年は目標2件に対して実績が15件です。査読付き論文数は、昨年目標8件に対して実績が82件、今年は目標16件に対して実績が58件と、下がっています。論文引用件数は、昨年目標48件に対して実績が60件、今年は目標56件に対して実績が110件と、上がっています。

- 受託・共同研究数と論文引用件数の両方を取り上げてはいかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 地域貢献については、受託・共同研究数（再掲）と審議会等委員委嘱数の2つで

す。

- 審議会等委員委嘱数は増えています。
- 受託・共同研究数は先程の研究と同じですから、審議会等委員委嘱数としてはいかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 次に、同じく参考資料3のP. 4にある「課題・改善点や業務運営等に対する意見」について審議いたします。昨年度は、c評価となった小項目を全て挙げていますが、今年も同様でよろしいでしょうか。

～委員全員了解～

- そうしますと、指標評価の教員応募倍率が該当します。年度末に急な公募が必要となったためとのことでしたので、やむを得ないといえはやむを得ないのかもしれませんが、急な公募が必要になるようなことにならないように、きちんとやっていただきたいということでしょうか。

それ以外には、事業評価の No. 89 学内施設利用指針の作成、No. 93 消防訓練の実施の、No. 97 男女平等意識啓発を図るための研修会の開催です。この4つを「課題・改善点や業務運営等に対する意見」として挙げたいと思います。

そのほかに、さらに改善を要する点というのはありませんか。

- 参考資料3のP. 4にある昨年度の「課題・改善点や業務運営等に対する意見」の3、4段落については、依然として指摘し続けた方がよい気がします。3段落目は、「県民等外部の者が、その活動内容を理解できるようわかりやすい記述を心がけるようにされたい。」というものです

- 委員からの質問のいくつかは、わかりやすく説明して欲しいというものでしたから、指摘していいのではないのでしょうか。

- 4段落目は、「次年度以降の年度計画の策定に当たっては、前年度までの取組実績を踏まえ、中期計画の達成に向けて的確な内容になっているかという観点での検討が必要と思われる。」としています。

制度上、評価委員会は中期計画の策定には関与しますが、年度計画は大学が策定し知事に報告するだけで、評価委員会は関与しません。ですから、中期計画の達成に向けてどのような取組を行うかということ、もう少し意識して年度計画を策定していただけると、わかりやすくなる気がします。

- 2段落目は、昨年だけの特殊な事情でしたので、今年は削除していいのではないのでしょうか。

～委員全員了解～

- さらに追加すべきことがあるようでしたら、次回の委員会の時に付け加えるということにさせていただきますが、いかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 「特筆すべき取組や顕著な成果が認められた事項」と「課題・改善点や業務運営等に対する意見」の文案については、委員長一任とするには重い案件ですので、委員長と事務局で作成後、委員の皆様から書面審議いただくという形にさせていただきますのですが、いかがでしょうか。

～委員全員了解～

- 以上で、本日の議題は終了しました。本日の審議を終了いたします。